１-１　重度の寝たきりで、　意識障害があり意思疎通ができず、自分の意志で四肢等を全く動かせないため

＜特記事項用紙の記載について＞

①被保険者番号を鉛筆等で記載してください。

②「概況調査票（特記すべき事項）」を記載

してください。（※１枚目のみ記載）

③１文字、空白を空けてください。

　④１群から７群まで、群が変わるときは、

行間を「２行」空けてください。

※追記する場合、その空白行を利用して

ください。

⑤調査の選択が「できる」や「自立」以外

の項目については、できる限り具体的に

状況を記載してください。

⑥３群の８・９、４群、５群の４について

は、「週に１回以上」、「１か月に１回以上、

１週間に１回未満」などの「頻度」を必ず

記載してください。

⑦２ページ目以降については、適宜枚数を

増やして記載してください。

※Microsoft Office Wordで入力する場合、

フォント10.5で記載してください。

現在、一軒家で一人暮らし。夫は３年前から特養に入居。一昨年までは、市内に住む長女や次女が週２回程度、車で買い物に連れて行っていたが、昨年度の冬頃から腰痛が悪化するとともに、身体機能が全般的に低下し、自分で家事をすることが困難となってきたため、隣の一軒家に住んでいる長男の妻が毎日、朝、昼、夕の食事を用意し、洗濯もしてくれるようになった。週に１回の通院は、長女や次女が車で連れて行っている。入浴時の介助が欠かせず、長男妻の負担が増えてきたことから、今回、新規申請するもの。

**①**

**②**

**③**

見本

　「2.左上肢」「3.右上肢」「4.左下肢」「5.右下肢」が「あり」を選択する。

　１-２　重度の寝たきりで、意識障害があり意思疎通ができないため、確認動作を行わなかった。家族に、「関節

　　　　の動く範囲の制限の有無の確認方法」に示す動作が行えるかどうか確認し、全てできるということで、より

追記例

**２行空けます**

　　　　頻回な状況に基づき「拘縮の有無」は全て「1.ない」を選択する。

　１-６　片足の欠損があり、床に片足しかつかないが、何にもつかまらずに自力で立位保持ができた。　家族の

　　　　話では、日頃も同様にできるとのこと。より頻回な状況に基づき｢1.支えなしでできる」を選択する。

**④**

　２-１　通常はベッドから車いすへ介護者が身体を支える介助を行っているが、体調の良いときは介助なしで

　　　　　移乗することもある。より頻回に見られる状況から「3.一部介助」を選択する。

　２-６　独居。本人によると、自分でトイレにて排便しているとのことだが、調査時にズボンに便が付いていた

　　　　　事を確認したため、不適切な状況にあると判断し、適切な介助の方法として「３.一部介助」選択する。

　２-７　自助具の歯ブラシと、持ち易いコップを使用し介助なしで行っているため、「1.介助されていない」を選択

　　　　　する。

　３-４　調査当日の昼食で何を食べたかまで答えることができた。しかし、家族の話では、日頃は物忘れがひど

　　　　　く直前のことも覚えていないことがあるとのこと。より頻回な状況に基づき「2.できない」を選択する

　３-６　調査当日の月日は答えることができるが、今の季節を答えることができないため、「2.できない」を選択。

**⑤、⑥**

　４-３　談話中などで職員と隠やかに会話していると突然怒り出して収まらなくなることが、週に１回程度あること

　　　　　から「３．ある」を選択する。職員はそのたびにそばに付き添い、なだめるため手間がかかっている。

**④**

**※**

**4-12 ひどい物忘れはない。**

　５-１　「麻痺等」があり、それぞれの薬の包み（パッケージ）から薬を取り出したりはできないが、予め薬局で

　　　　　分包されており、「薬の内服」の介助は行われていないため、「1.介助されていない」を選択する。

**⑦**